

## 「ゲラサ人の地（後編）」

マルコの福音書 5:14~20

### はじめに

イエシュアは弟子たちとともにガリラヤ湖を渡り、ゲラサ（「追放する」という意味）の地に行かれました。そしてそこで汚れた霊、悪霊につかれた人に出会い、その悪霊どもを追い出されました。レギオンと名乗ったその悪霊どもは、追い出されると今度は豚の群れの中に入りました。そしてそこにいた二千頭ほどの豚はみな湖に飛び込んで溺れ死んだという、なんとも奇妙で不可解で、そして恐ろしい出来事が起こりました。しかしこの出来事は、やがて起こる出来事、神がなさそうとしておられるご計画を指し示した「型」、たとえであったことを、前回のメッセージで述べました。



その「型」を簡潔に解き明かすところです。この汚れた霊、悪霊につかれた人とは、神の民として選ばれたイスラエルのことです。そしてこの霊、レギオンとはもちろんサタンと呼ばれる悪魔、そしてそれに従う悪霊どものことで、また豚の群れは反キリスト、偽預言者たちとそれに従う人々、またイスラエルの神を唯一の神としないすべての人のことです。イエシュアは終わりの日にこの地上に再び戻って来られ、イスラエルの民をご自分の民として引き寄せ、神に敵対するすべての悪を地上から一掃されるというご計画が、このゲラサでの出来事には表されているということです。

今日の箇所はその続きになります。イエシュアの行動、言動、出来事にはすべて意味があり、そしてそれはすべて神の国を建て上げるための、神のご計画が表されています。神はこれから後に起こることを聖書に記された様々な出来事の中に秘める形で、奥義として表しておられるのです。今日もそのうちのいくつかを分かち合ってまいりたいと思います。

### 1. 豚を飼っていた人々

【新改訳 2017】 マルコの福音書

5:14 豚を飼っていた人たちは逃げ出して、町や里でこのことを伝えた。人々は、何が起こったのかわ見ようとやって来た。

5:15 そしてイエスのところに来ると、悪霊につかれていた人、すなわち、レギオンを宿していた人が服を着て、正気に返って座っているのを見て、恐ろしくなった。

5:16 見ていた人たちは、悪霊につかれていた人に起こったことや豚のことを、人々に詳しく話して聞かせた。

14 節と 16 節の内容はほとんど同じで、「豚を飼っていた人たち」と「見ていた人たち」とは同じ存在であると考えられます。彼らは自分たちが飼っていた豚から「逃げ出し」ました。前回、豚は異教の神々を信じる者たちの象徴的存在であることを述べました。彼らはそこから逃げた、離れた人々であるということです。そしてまた彼らは「悪霊につかれていた人に起こったことや豚のこと」を宣伝伝えました。ここに前回のメッセージの解釈を当てはめるならば、彼らはイエシュアが地上再臨され、イスラエルの民を集め、神の民として回復させることと、神に敵対するものどもをすべてこの地上から追い出されるという

神のご計画を宣べ伝えた人々ということになります。つまり「豚を飼っていた人たち」「見ていた人たち」そして彼らの言葉を聞いてイエシュアのもとに集まって来た「人々」とは、神のご計画としての福音を信じて宣べ伝える異邦人の教会、クリスチャンを指し示した「型」であると考えられます。私たちはイスラエルにとっては異邦人として生まれましたが、異邦人の神々から離れ、聖書に記された天地創造の神でありイスラエルの神である主、そしてその神の御子イエス・キリストすなわちメシアであるイエシュアだけを自分の神として受け入れました。そしてこの神が聖書に記された福音を聞き、信じて受け入れ、これを宣べ伝える者とされました。その姿が「豚を飼っていた人たちは逃げ出して、町や里でこのことを伝えた。」また「見ていた人たちは、悪霊につかわれていた人に起こったことや豚のことを、人々に詳しく話して聞かせた。」という記述に、まるで繰り返して強調するかのようには表されていると考えられます。

## 2. 悪霊につかわれていた人

そしてイエシュアのもとで「悪霊につかわれていた人、すなわち、レギオンを宿していた人が服を着て、正気に返って座っている」という、この状態は一体何でしょうか。前回のメッセージで、この「悪霊につかわれていた人、すなわち、レギオンを宿していた人」とは、ユダヤ人とも呼ばれるイスラエルの民を表していると言いました。それが「服を着て、正気に返って座っている」ということですが、ここで「座っている」という言葉は、ヘブル語ではヤーシャヴ(יָשַׁב)というのですが、これは本来「住む、とどまる」という意味の言葉で、聖書で最初に使われたヤーシャヴは、創世記 4:16 で、「エデンの東に住む」ことを指し示しています。

【新改訳 2017】創世記

4:16 カインは【主】の前から出て行って、エデンの東、ノデの地に**住んだ**。

この「エデンの東」とは、創世記 3:24 でエデンの園にあるいのちの木への道を守るために御使いが置かれた場所です。

【新改訳 2017】創世記

3:24 こうして神は人を追放し、いのちの木への道を守るために、ケルビムと、輪を描いて回る炎の剣をエデンの園の東に置かれた。

この「ケルビム」とは「守護者、神の乗り物」などとも呼ばれ、エゼキエル書などに登場する神の御そばに仕える天上の存在で、悪魔と呼ばれるサタンも、もとはこのケルビムの一人でした。ですからこれはやがてイスラエルの民は、回復されたエデンの園としての「神の国」を守る存在、神に忠実な、御そばに仕える存在となることが指し示されていると考えられます。それは以下に預言されているとおりです。

【新改訳 2017】イザヤ書

52:1 目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、シオンよ。あなたの美しい衣をまとえ、聖なる都エルサレムよ。無割礼の汚れた者は、もう二度とあなたの中に入っては来ない。

61:3 シオンの嘆き悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、嘆きの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるために。彼らは、義の樅の木、栄光を現す、【主】の植木と呼ばれる。

61:4 彼らは昔の廃墟を建て直し、かつての荒れ跡を復興し、廃墟の町々、代々の荒れ跡を一新する。

61:5 他国の人は立って、あなたがたの羊の群れを飼い、異国の民があなたがたの農夫となり、ぶどう作りとなる。

61:6 しかし、あなたがたは【主】の祭司と呼ばれ、われわれの神に仕える者と言われる。あなたがたは国々の財宝を味わい、彼らの富を誇る。

#### 【新改訳 2017】エゼキエル書

20:39 さあ、イスラエルの家よ、【神】である主はこう言われる。それぞれ自分の偶像のところに行って仕えるがよい。後には必ず、あなたがたはわたしに聞くようになる。あなたがたは二度と、自分たちのささげ物や偶像で、わたしの聖なる名を汚さなくなる。

20:40 わたしの聖なる山、イスラエルの高い山の上で——【神】である主のことば——そこで、この地にいるイスラエルの全家、そのすべてがわたしに仕えるからだ。そこで、わたしは彼らを喜んで受け入れ、そこで、あなたがたのすべての聖なるものとともに、あなたがたの奉納物と最上のささげ物を求める。

旧約聖書に記された彼らの歴史にあるように、イスラエルの民は神に選ばれた民でありながら、その神に逆らい、偶像礼拝を繰り返す、ついには神の怒りにより国土を失い、流浪の民、離散の民となりました。しかし神は上記のような預言のゆえに、そして何より彼らの父祖アブラハム、イサク、ヤコブと交わされた以下の契約、

#### 【新改訳 2017】創世記

22:16 こう言われた。「わたしは自分にかけて誓う——【主】のことば——。

22:17 確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。

22:18 あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる……。」

のゆえに、神は再びイスラエルを国として起こし、この民によって「地のすべての国々は祝福を受けるようになる」ために、もう二度と罪を犯さない、神に聞き従う民として新しく造り変えようとしておられるのです。これを御子イエシュアによって成し遂げることが神のご計画であり、「神の国」の完成なのです。それがイエシュアの前に「悪霊につかわれていた人、すなわち、レギオンを宿していた人が服を着て、正気に返って座っている」という出来事の中に「型」として表されていると考えられます。

### 3. 出て行って

#### 【新改訳 2017】マルコの福音書

5:17 すると人々はイエスに、この地方から出て行ってほしいと懇願した。

ここまでの解釈からしますと、この出来事はまるで「人々」すなわち私たち異邦人の教会がイエシュアを「出て行ってほしいと懇願し」追い出してしまうことを表しているかのような内容ですが、そうではありません。ここで「出て行って」と訳されているヘブル語はスール(גור)と言い、本来は以下のような意味で使われていました。

【新改訳 2017】創世記

8:13 六百一年目の第一の月の一日に、水は地の上から干上がった。ノアが箱舟の覆いを取り払って眺めると、見よ、地の面は乾いていた。

これはノアの箱舟の物語の一場面ですが、全世界を水没させた大洪水によってノアの箱舟の中にいたものたち以外のすべての地上の生命が減りました。やがてその大洪水も終わりを迎え、「ノアが箱舟の覆いを取り払って」という箇所、聖書で最初のスールがあります。このように、スールとは本来「見よ、地の面は乾いていた。」とあるように、新しい地を見るという出来事が指し示されていると考えられます。ですからこの「人々はイエスに、この地方から出て行ってほしいと懇願した。」という出来事には、異邦人の教会が、イエシュアによってこの地上に建てられる「神の国」を求め、待ち望む姿が「型」として表されていると考えられます。まさにイエシュアご自身がこう言われたとおりです。

【新改訳 2017】マタイの福音書

6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

【新改訳 2017】ルカの福音書

12:31 むしろ、あなたがたは御国を求めなさい。そうすれば、これらのものはそれに加えて与えられます。

このように、私たち教会のあるべき姿、イエシュアに命じられている行いは、「神の国、御国を求めること」なのです。それは神がどのようにしてこの「神の国」を建てられるのか、そのご計画を進めておられるのか、そしてその完成とはどのようなものなのか、ということに目を留め、思い巡らし、その日を待ち望みながら歩むことではないかと思われます。今目の前にある問題や困難、自分のやりたいことや欲しいものに目を向けることではありません。なぜならこの「神の国」の中に、私たちの求めるすべてがあるからです。ですが「神の国」を求めると言っても、どうか「自分がそこにいれるだろうか、もし入れなかったらどうしよう。」などというような思いになることがありませんように。

【新改訳 2017】ルカの福音書

12:32 小さな群れよ、恐れることはありません。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国を与えてくださるのです。

#### 4. 帰りなさい

【新改訳 2017】マルコの福音書

5:18 イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人がお供させてほしいとイエスに願った。

5:19 しかし、イエスはお許しにならず、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰りなさい。そして、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを知らせなさい。」

5:20 それで彼は立ち去り、イエスが自分にどれほど大きなことをしてくださったかを、デカポリス地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。

イエシュアはこの悪霊につかれていた人がご自分について来ることをお許しになりませんでした。この出来事は、**イエシュアが十字架の死からよみがえられ、弟子たちのもとを離れ、天に上って行かれた出来事**（使徒の働き 1:9～11）を指し示していると考えられます。「お供させてほしい」と訳されている箇所には「置く」という意味の動詞ナータン(נָתַן)が使われているのがその理由です。この言葉は創世記 1:17 で最初に使われ、本来「天の大空に置く」という意味で使われたものだからです。イエシュアは現在天におられ、父なる神の右の座に着いておられます（マルコ 16:19）。

そしてイエシュアはこの悪霊につかれていた人に「**あなたの家、あなたの家族のところに帰りなさい。**」と言われました。ここで使われている、「帰る」という意味のヘブル語シューヴ(שׁוּב)は、創世記 3:19 にその最初の言及があり、本来自分が取られた場所、生まれた土地に帰るという意味の言葉です。実はこの御言葉はこれから後に起こる出来事を指し示したのではなく、なんと今日、すでに現実の出来事として起こっています。西暦 70 年にローマ帝国によってエルサレムが陥落し、イスラエルの民は国土を失い、離散の民となりましたが、西暦 1948 年、つまり今から 71 年前に、彼らは突如として世界中から、かつての国土へ帰還を開始し、そして国が再建されました。この出来事は人類史上最大の奇蹟とされています。何しろ一度完全に滅びた国が、なんと 1800 年以上も経ってから再建されたのですから。このようなことは常識ではあり得ない、まさに奇蹟としか言いようのない出来事です。「**人々はみな驚いた。**」とありますが、それはまさにこの出来事を指し示している「型」と考えられます。イエシュアはまだ再臨しておられません。つまりこの箇所に記されているようにイエシュアは「**供**」におられるわけではありませんが、この記述における悪霊につかれていた人の「型」であるイスラエルの民は今日「**あなたの家、あなたの家族のところに帰りなさい。**」という御言葉が指し示す事実の中にあります。このように、私たちは今、聖書に記された神のご計画が現実に起こっている時代に生かされているのです。



## 5. 言い広める

しかしやがて人類はこれよりもさらに驚くこととなります。それは「**5:20 それで彼は…言い広め始めた。**」という記述が指し示す出来事が起こる時です。ここで「**言い広め**」と訳されている箇所のヘブル語はカーラー(קָרָא)という動詞で、これは本来「名を呼ぶ、名付ける」という意味の言葉です（創世記 1:5）。

「悪霊につかれていた人」の「型」であるイスラエルの民が「名を呼ぶ」時こそが、人類が真に驚くべき時です。この名がイエシュアであることは言うまでもありません。イスラエルの民が、イエシュアを神の御子メシアとして認め、その御名を呼び求める時、イエシュアはこの地上に再臨されます。なぜならイエシュアはイスラエルの民、ユダヤ人たちに対してこのように言われたことが記されているからです。

【新改訳 2017】 マタイの福音書

23:39 わたしはおまえたちに言う。今から後、『祝福あれ、主の御名によって来られる方に』とおまえたちが言う時が来るまで、決しておまえたちがわたしを見ることはない。

【新改訳 2017】 ルカ

13:35 見よ、おまえたちの家は見捨てられる。わたしはおまえたちに言う。おまえたちが『祝福あれ、主の御名によって来られる方に』と言う時が来るまで、決しておまえたちがわたしを見ることはない。

つまりイスラエルの民がイエシュアに向かって「祝福あれ、主の御名によって来られる方に」と言うその時、イエシュアは地上に再臨されるということです。現在のところ、未だ多くのユダヤ人たちがイエシュアを十字架につけた、あの時の状態のままで、呼び求めるどころかイエシュアという名を口にすることさえ忌み嫌っています。しかし聖書に記されていることは必ず実現します。彼らが自分たちの誤りに気づかされ、悔い改める時が来ることさえもこのように預言されています。

【新改訳 2017】 ゼカリヤ書

12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。

神から注がれる「恵みと嘆願の霊」によって、イスラエルの民は自分たちの誤りに気づかされ、イエシュアを神の御子メシアと認めず、「突き刺した」こと、すなわち十字架にかけたこと、その罪を悔い改める時が来ます。このご計画が聖書に記されている以上、それは必ず起こるのです。そして彼らはイエシュアの名を呼び求め、神の御子メシアであるイエシュアは帰って来られます。そしてイエシュアは地上の悪を一掃し、イスラエルの民を呼び集め、この民によって地上のすべての国々を祝福する「神の国、御国」をお建てになります。これは作り話でも空想話でもありません。比喻でも象徴でもなく、文字通りの実際の出来事として起こります。たとえもしあなたが認めなくても、信じなくても、たとえ全人類がこの事実を信じなかったとしても、これは必ず成ります。なぜならこれは神がご計画され、神ご自身によって成し遂げられることだからです。

このように、ゲラサ人の地で起こった一連の出来事もまた、その一つひとつが神のご計画として現実に起こった、あるいはやがて起こる出来事を指し示していることを述べました。聖書は神の計画書です。これからもご一緒に、この神のご計画の完成である「神の国」を求めて、聖書に取り組んでまいりましょう。聖霊の助けがありますように、そして御国がこの地に来ますように。